共同研究グループ活動報告（2015 年度）

日中関係史研究会

本年度は長らく研究会代表を務めた大里浩秋氏が定年退職したことに伴い代表を山口建治に交代した出発であった。以下，本年度に開催された研究会の日時を箇条書きで記す。

⑴　研究会
報告：「鍾馗の伝来ルートーオコ（打夜胡）来朝」
山口建治（本学外国語学部教授）
日時：5 月 26 日（火）午後 4：30～5：30
場所：17 号館 216 号室（人文学研究所資料室）
⑵　研究会（共催）
テーマ：「脱冷戦期の中国・台湾における日本語ラジオ放送 ── プロパガンダからの転換 ──」
司会：村井寛志（神奈川大学）
報告 1「日中国交回復後のラジオペキン ── プロパガンダからの転換 ──」中村達雄（フリーランス，元北京放送局）
報告 2「中華民国の対外・対日放送の変遷，および転換期となった 1990 年代の現場風景」本田善彦（フリーランス，元中国広播公司・海外部）
コメンテーター：本田親史（神奈川大学非常勤講師）
日時 7 月 8 日（水）18：00 開始
場所横浜キャンパス 20 号館 4 階 417A
共催：神奈川大学人文学研究所，人文学会，「帝国とナショナリズムの言説空間」，「日中関係史」 共同研究グループ
⑶　研究会
報告：「習近平政権と日中関係について」朱建栄氏（東洋学園大学教授）
日時：2015 年 6 月 25 日（木）14：40～16：10
場所：3 号館地下 102 号室

（文責　山口建治）

色彩と文化Ⅳ

1. 論文
⑴　三星宗雄
「回想のカトマンズ」
『神奈川大学人文学研究所報』 54，15–51.
⑵　尹亭仁
「ソウルの言語景観 ── 英語・日本語・中国語の表記を中心に」
『神奈川大学『人文研究』187，1–36.
⑶　彭国躍
「近代上海多言語景観の類型分析 ── アイデンティティ表示の多様性」（執筆中）
2. 海外調査
⑴　尹亭仁　ソウルの言語景観の調査，ソウル，2015 年 7 月 30 日～8 月 1 日
⑵　尹亭仁，　中国（上海）における JAPAN BRAND（JAPAN COLOR を含む）に関するデータ収集，2016 年 1 月 22 日～25 日

（文責　尹亭仁）

言語変異研究

1. 研究内容：言語と社会の関係に関する総合的な研究，今年度は主に歴史的言語景観に関する調査研究を行った。
2. 調査研究の主なテーマ：
⑴「上海南京路言語景観の百年変遷」
⑵「上海の都市形成期における言語景観」
⑶「上海言語景観の百年間の変容 ── “大世界”の事例研究」
3. 研究所所蔵資料の収集：
『近世中国映像資料』（14 冊）黄山書社 2012
『The Changing Chinese: The Conflict of Oriental and Western Cultures in China』
NEW YORK: THE CENTURY CO. 1912
『甲午：120 年前的西方媒体观察』三联书店

2015

4. 2016年度も引き続き歴史言語景観について調査する予定である。

（文責　彭国躍）

プランゲ文庫研究会

本年度は，プランゲ文庫の二期にわたる学内共同研究が終わったこともあり，一年間，とくに大きな研究会を開催することはできなかったが，研究会メンバーの尹健次氏（神奈川大学名誉教授）により「在日」の精神史の全3巻『1 渡日・解放・分断の記憶』，『2 三つの国家のはざまで』，『3 アイデンティティの揺らぎ』（岩波書店，2015年）が刊行されたことは特筆しておきたい。

神奈川大学図書館に所蔵されている貴重文献「プランゲ文庫」を起点にしつつ，第二次大戦終了後の東アジアにおける民族主義の歴史体験とその意味を軸とするより幅広い，深度のある研究を目指す，という研究計画に沿って来年以降も活動を継続したい。

（文責　孫安石）

活字文化の研究

1. 講演会・研究会の開催：
   2015年11月7日（土）
   横浜市読書活動推進月間応援イベント「紙つなげ！フォーラム」参加。
   ① 講演会：「欧米における日本のイメージ」
   （神奈川大学外国語学部国際文化交流学部准教授　ステファン・ブッヘンベルゲル氏）
   ② 体験会：「帯作り体験コーナー」
   ※その他，適宜，メンバー間での情報共有を行った
2. シンポジウムの開催：特になし
3. 活動内容
   (1) 活字を通じた日本語教育と異文化理解（国際）に関する調査・研究
   (2) 活字文化普及のための教育・啓発活動（教育）に関する調査・研究

（文責　松本安生）

〈身体〉とジェンダー

◆本年度は，計画通り，本研究会に叢書刊行の予算が採択されたことを受け，各メンバーが成果をまとめて執筆する運びとなった。

◆叢書のタイトルは『〈68年〉の性――変容する社会と「わたし」の身体』（青弓社）となり，各メンバー担当の章タイトルは以下のようになった。

第1章　幽閉されるアメリカン・ヒロイン――19世紀末から1960年代へ（山口ヨシ子）

第2章　誰の〈身体〉か？――アメリカの福祉権運動と性と生殖をめぐる政治（土屋和代）

第3章　スウィンギング・シックスティーズの脱神話化――アンジェラ・カーターの『ラブ』（村井まや子）

第4章　身体の「自律」から「関係」の身体へ――アニエス・ヴァルダ『歌う女，歌わない女』をめぐって（熊谷謙介）

第5章　女性性の戦略的表象――アンナ・オッパーマンの「アンサンブル・アート」と〈68年〉の身体（小松原）

第6章 1960年代日本の女性運動家の実情とイメージ――白土三平のマルクス主義的長編漫画『カムイ伝』を題材に（クリスチャン・ラットクリフ）

◆執筆に向けての互いの問題意識を再度確認し，より一層まとまりある叢書内容にするため，下記の日程で研究会も実施した。

第1回研究会（7月21日）発表者：土屋和代「誰の〈身体〉か？――米国における福祉権運動と性と生殖をめぐる政治」

第2回研究会（10月6日）発表者：熊谷謙介「身体の「自律」から「関係」の身体へ――アニエス・ヴァルダ『歌う女，歌わない女』をめぐって」

第3回研究会（11月3日）発表者：小松原「女性性の戦略的表象――アンナ・オッパーマンの「アンサンブル・アート」と〈68年〉の身体」

（文責　小松原由理）

自然観の東西比較

1. 講演会・研究会の開催

2015年度の研究計画についての打合せ

開催日：2015年4月24日（金）

内　容：2015年度共同研究奨励助成金申請・支出計画書（「自然観の東西比較研究」）の確認，研究目的・研究計画の再確認（東洋絵画の研究に関しては，「自然観を基礎とした文化の東西比較研究コレクション」のなかに中国美術についてのコレクションが含まれており，研究資料として利用できることを確認），「研究組織・研究概念図」の追加・訂正，各自の調査旅行予定の確認（予算の確認），研究会の年度計画（毎月第3水曜日とする），講演会の予定

第1回研究会

開催日：2015年5月20日（水）

場　所：17–216

報告者：上原雅文

テーマ：「東西の「基層的自然観」とその変遷の概観」

第2回研究会

開催日：2015年6月17日（水）

場　所：17–216

報告者：鳥越輝昭

テーマ：奪い返す「自然」と抗う想像力 ── ピラネージのローマ廃墟画を中心に ──

第3回研究会

開催日：2015年7月15日（水）

場　所：17–216

報告者：伊坂青司

テーマ：⑴　風土論の系譜 ── 哲学的視点から ──

⑵　三陸気仙沼「森は海の恋人」運動の視察報告

第4回研究会

開催日：2015年9月30日（水）

場　所：17–216

報告者：村井まや子

テーマ：「蛇，鳥，女 ── 非変身譚としての川上弘美『蛇を踏む』 ──」

第5回研究会

開催日：2015年10月28日（水）

場　所：17–216

報告者：坪井雅史

テーマ：近代捕鯨にみる自然と経済 ── 日本における小型沿岸商業捕鯨の現状を考える ──

第6回研究会

開催日：2016年1月27日（水）

場　所：17–216

報告者：山本信太郎

テーマ：宗教改革期ウェールズの自然と景観

第1回講演会（予定）

開催日：2016年2月24日（水）

場　所：17–215

講演者：廣瀬友久（大妻女子大学教授）

テーマ：イギリス・ロマン主義の自然観と風景画

3. シンポジウムの開催計画

なし

4. 活動報告

本共同研究グループは，今年度，神奈川大学共同研究奨励助成金（「自然観の東西比較研究」）に採択された研究グループである。4月に，当助成金申請の際に提出した申請書・支出計画書に基づいて研究打合せを行い，各自の調査旅行と定例研究会および講演会の開催計画を立てた。結果として，定例研究会，国内外の調査旅行，国際学会の発表など，ほぼ予定通りに活動できた。研究会の内容は，思想（基層的自然観，風土論），絵画（風景画），物語，景観，環境倫理（森と海），生命倫理（捕鯨）などに関する研究報告・調査報告であり，毎回，活発な質疑応答と議論が交わされた。

（文責　上原雅文）

近代都市の表象

1. 共同研究グループ名称：近代都市の表象
2. 講演会・研究会の開催

「〈身体〉とジェンダー」研究グループとの協同により「都市・身体表象の生成とその変容」を主題とする合同講演会・研究会を開催している。同グループの記載と重複するだろうが，開催は以下のとおりである。

研究会：5 月 26 日（火）
以後の研究計画・出版計画について打ち合わせ

講演会：6 月 23 日（火）
講師：石川真知子
論題：「死を賭して「男」に変身する妹――家族規範を攪乱する女性の物語として再解読する『兄妹心中』音頭――」

研究会：7 月 21 日（火）
発表者：土屋和代
論題：「誰の〈身体〉か？――米国における福祉権運動と性と生殖をめぐる政治」

研究会：10 月 6 日（火）
発表者：熊谷謙介
論題：「身体の「自律」から「関係」の身体へ――アニエス・ヴァルダ『歌う女，歌わない女』をめぐって」

研究会：11 月 3 日（火）
発表者：小松原由理
論題：「女性性の戦略的表象――アンナ・オッパーマンの「アンサンブル・アート」と〈68 年〉の身体」

研究会：12 月 1 日（火）
発表者：鳥越輝昭
論題：「『恋愛専科』のなかの〈ローマ〉のことなど――保守化最終段階としての 1962 年――」

3. シンポジウムの開催計画
なし

4. 活動内容
近代の東洋・西洋の諸都市の来し方や現況について，表象という切り口から分析を試みている。
今年度中に人文学研究叢書を出版することを目標にしている。

（文責　鳥越輝昭）

ヒト身体の文化的起源

1. 活動内容
① 人間の身体を系統的に遡り，その根源を考察することで，身体が持つ機能的な意義を検討した。
Ⅰ 特に関節運動を増幅するアキレス腱の屈曲点について調査・研究を進めた。研究内容は 2015 年 9 月の第 70 回日本体力医学会（和歌山市）で「アキレス腱が曲がるワケ」と題する一般発表を行った。
Ⅱ アキレス腱の機能的意義を調べる一貫として，2015 年 11 月下旬にカリフォルニア大学サンディエゴ校医学部を訪問し，腱組織を描出する超短エコー時間イメージングによる撮影を行った。

（文責　衣笠竜太）

「帝国とナショナリズムの言説空間」

1. 研究会の開催
第 1 回：日程：2015 年 7 月 22 日（水）
午後 4：00～6：00
場所：17-401 号室
（横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室）
講師：梅崎かほり（本学外国語学部助教）
発表論題：「モラレス政権下のボリビアにおける「ネーション」の生成」

第 2 回：2015 年 12 月 19 日（土）
午後 2：30～5：00
場所：17-401 号室
（横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室）
講師：小馬徹氏（本学人間科学部教授）
発表論題：「トライバリズムと／の地

方分権化：ケニア新憲法公布によるナショナリズムの急展開」

第3回（予定）：日程：2016年3月24日（木）午後2：00〜4：30

場所：神奈川大学ひらつかキャンパス　11号館第1会議室

講師：イ・ミョンソク氏（成均館大学国政管理大学院教授）

発表論題：「新しい社会問題解決方法としてのネットワークガバナンス：理論的議論と韓国の経験」

逐次通訳：久田和孝氏（神奈川大学外国語学部准教授）

討論者：米野みちよ氏（フィリピン大学アジア研究センター准教授）
泉水英計氏（神奈川大学経営学部教授）

司会：高城玲氏（神奈川大学経営学部准教授）

2. 活動内容

昨年度に採択された神奈川大学共同奨励研究助成金「帝国とナショナリズムの言説空間：国際比較と相互連携の総合的研究」と同時並行で進めている共同研究グループである。

（文責　永野善子）

NCH新聞研究会

本研究会は，神奈川大学が所蔵するNCH（North China Herald）新聞（ONLINE版）の日本，中国，韓国，東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究を目指している。本年度は共同研究会の開催は実現できなかったが，研究会のメンバである孫安石が（株）雄松堂の冊子の中に「『The North China Herald』を読む――中国と日本，そして東アジア研究のための宝庫」という短文を紹介した他，2015年12月4日に開催された第55回『良友』画報研究会において，「NCHのなかの『良友』画報」というテーマの報告を行った（http://liangyou.jugem.jp/ を参照）。

また，2016年2月19日（金曜日）と20日（土曜日）に神戸学院大学にて開催される第56回

e Newspapers Collection を推薦します

推薦します

「The North China Herald」を読む―中国と日本，そして東アジア研究のための宝庫

神奈川大学外国語学部中国語学科教授　孫　安石

戦前期に中国で刊行された多くの英字新聞の中で，The North China Herald and Supreme Court & Consular Gazette（以下，The North China Herald と記す）は，最も長期間に亘って発行された新聞であり，その記事内容は上海と中国にとどまらず，日本と朝鮮半島，さらに東南アジアを包括するものであることから，同新聞は東アジアの歴史研究のための「宝庫」と言えよう。同紙に，雑誌の The Far Eastern Review: Commerce, Engineering, Finance を加えれば，我々は欧米の人が東アジアで営んでいた日々の政治と経済，そして社会と文化活動がいかなるものであったのかを垣間見ることができよう。但し，**多くの場合、The North China Herald の利用には、書誌の壁の他に一部の図書館にしか所蔵されていないというアクセス面のハードルを越えなければならなかったが、ここにきて The North China Herald を含む合計 12 種類の英字新聞の横断検索が可能になった ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection が登場したのである。**

また、日本では The North China Herald が上海で発行された欧米系の新聞のなかで「反日」的な論調を展開した代表的な新聞の一つとして取り上げられることが多いが、同新聞が最も重視していたのは、欧米諸国が設定した租界の利益を守ることにあったことを忘れてはならない。

その典型的な例が，蔣介石の国民革命軍が北京の軍閥政府打倒を目指した 1927 年の軍事行動（北伐）と 1928 年の済南事変の勃発と共に巻き起こった日貨排斥運動に関する同紙の論調であろう。1928 年 4 月 14 日の記事「Manifesto by General Chiang Kai-Shek to the Powers.」や同日の風刺漫画を読めば，同紙が最も重視したのは，国民革命軍の「正義」や中国の「統一」という理想論ではなく，国民革命軍が諸外国人の生命と財産を保護することを約束した，という蔣介石の声明文であったことがよくわかる。

MANIFESTO BY GENERAL CHIANG KAI-SHEK TO THE POWERS

Appeal to Allow the Nation to Work Out Her Revolution Without Interference from the Outside

▲1928年4月14日　The North China Herald より「Manifesto by General Chiang Kai-Shek to the Powers（蔣介石による列強に対する声明文）」。

▲1928年4月14日　Sapajou 画 The North China Herald の挿絵「"L'appétit vient en mangeant!"（食欲は食べるほど出てくる）－中国問題解決が第三のイギリス租界を目的し，フランス租界を目的しようとする動きを風刺したもの。

私にとってもう一つThe North China Heraldをめくる楽しみは、1923年から同紙の政治風刺画を担当した上海の偉大な漫画家「Sapajou」(中国名：顧柏薦)の作品に出会うことである。

ロシア革命を逃れて 1920 年に上海に到着した Sapajou は，The North China Herald と The North-China Daily News に政治風刺のコラムの連載をもち，鋭いタッチで当時の中国と欧米諸国，そして日本が対立する国際政治を風刺する優れた作品を世に送り出したのである。これら Sapajou の風刺画は後に Shanghai' s schemozzle（by The North-China Daily News,1937 年）として刊行されるが，そこには中国の利権を侵略する日本の貪欲さが余すところなく辛辣に描写されている。

今回の ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection の登場によって，一人でも多くの研究者と学生が中国と日本，そして東アジア研究のための「宝庫」に出会うことを切に願いたい。

▲1929年10月5日　Sapajou 画 The North China Herald の挿絵「Shanghai Dreams of the Future（上海が夢見る未来像）」－Sapajou が描いた東天使と洞庭湖にかかる橋，使い，やすい電話の登場は既に実現したもの。あと残っているは，空飛ぶ人力車とジャンク船代わりの巨大橋のみ？

『良友』画報研究会においてもNCHを取り上げた二つの報告――(1)「North China Heraldと日本人」（仮）藤田拓之，(2)「North China Heraldと『良友』画報」（仮）孫安石（神奈川大学）が行われる予定である（http://liangyou.jugem.jp/ を参照）。

（文責　孫安石）

「声の文化」

今年度は以下の日時に第一回の研究会を開催予定である。

日時：2016年1月20日（水）　17：00〜

場所：17-216（人文学研究所資料室）

報告者：吉川良和氏（本学非常勤講師，元一橋大学教授）

題目：「旧加賀藩の盆踊り唄――東アジアの目連伝承――」

また，上記の報告終了後に，本研究会の各メンバーの研究課題を説明し，研究会の今後の活動予定について話し合う。

（文責　村井まや子）